

2 海外都市行政視察 総括

団長 若江 進

令和5年度の海外都市行政視察は、令和5年4月10日開催の各派代表者会議での申し合わせ事項に基づき、6月9日開催の第1回打ち合わせ会において、令和5年度松山市議会議員海外都市行政視察団を結成し、同日、団長、副団長の選任を行った。

また、松山市議会議員海外都市派遣実施要領を確認のうえ、視察先、視察内容等について慎重に審議を行った。

視察先については、実施要領第3条で「姉妹都市を中心に実施し、その近隣の都市までとする」としており、まず、アメリカ・サクラメント市とドイツ・フライブルク市のどちらの方面を視察するか、議論した。今回の視察団メンバーの多くは、前任期中にドイツ・フライブルク市への視察を経験していたこともあり、視察先は、アメリカ・サクラメント市との友好交流を図るとともに、その近隣のサンフランシスコ市、カナダのバンクーバー市、リッチモンド市とし、調査研究テーマは、「姉妹都市提携」、「地場産業の振興」、「SDGs関連の取組」、「都市計画と交通施策」、「図書館の運営管理」、「農林水産業振興」、「交通施策」の7項目に決定した。

7月中旬には、市内旅行会社7社を対象に視察旅費の上限及びその他諸条件、視察先及び視察内容などを提示し、各社から企画書の提出を求めた。

そして、8月25日開催の第3回打ち合わせ会において、各社から提示された企画案を十分に審議し「名鉄観光サービス株式会社」の企画に決定した。

11月21日には、サクラメント市親善訪問団が松山市を表敬訪問すること

に合わせ、松山サクラメント姉妹都市協会の水島富幸子副会長に直接お会いし、サクラメント市での視察先等の手配などについての打ち合わせをさせていただきました。

12月定例会閉会日の12月14日には、令和6年1月21日から1月27日までの7日間の日程で視察先及び15名の視察団の派遣承認が了承され、12月20日には、視察のテーマ別に関連した勉強会を開催し、本市の事業内容の再確認と視察先の現状の情報収集に努め、今後の市政に反映させるための視点について、現地視察時に理解しやすいように事前準備を行った。



(勉強会の様子)

令和6年1月21日 視察1日目



(出発式)

海外都市行政視察の出発日には、渡部克彦議長をはじめ、議会事務局職員の出席のもと、松山空港の待合室で出発式を行い出席者の見送りを受け、視察団15名と随行職員1名は、日本時間12時20分発の羽田空港行に搭乗、羽田空港で出国手続きを終え、17時30分発のサンフランシスコ空港行に搭乗し、所要時間約9時間30分の予定でアメリカへ出発した。

サンフランシスコ空港には、現地時間1月21日の午前10時に到着（時差は17時間、日本時間は22日午前3時）した。到着後の入国手続きに時間がかかり、視察団員全員の手続きが終わったのが12時と約2時間要した。

その後、専用車でサクラメント市へ向けて移動し、15時30分にサクラメント市内のホテルに到着した。サクラメントの気温は日本とほぼ同じで寒さはあまり感じなかった。サクラメント市に到着後は、最初の視察先である「ロバート・T・マツイ公園」へ向かった。同公園は、



(工事中の Hanami Line)

サクラメント川流域再開発計画に基づき再整備を進めている市民公園で、日本風の眺望を備えた区画に桜並木（通称「Hanami Line(ハナミライン)」）の整備が進められており、この春には完成予定という事であった。今回は、工事中で「Hanami Line(ハナミライン)」を見ることができなかったが、完成を楽しみにするとともに、訪れる人が笑顔あふれる憩いの場になることを期待したい。



(松山サクラメント姉妹都市協会
グロリア・エスペホ会長:中央)

視察の後は、松山サクラメント姉妹都市協会主催による交流夕食会が開催された。グロリア・エスペホ会長はじめ、水島副会長夫妻、リック・ジェニングズ市議会議員、リサ・カプラン市議会議員、そして協会会員など総勢約40人の皆さんからもてなしを受けた。それぞれの

テーブルでは、愛媛大学日本人留学生等の通訳や翻訳アプリを駆使しての会話など様々な形でコミュニケーションを図り、この貴重な時間を楽しんだ。また、松山市出身のハーピスト古佐小基史氏によるハープの生演奏も行われ、心地よい気持ちにさせてもらい終始和やかな雰囲気の中で交流を深めることができた。

1月22日 視察2日目

午前中、まず初めにサクラメント市役所を表敬訪問した。市庁舎では、昨夜に引き続きジェニングズ議員に議場を案内していただいた。ジェニングズ議員は、元アメリカンフットボール選手で2014年1月にサクラメント市の第7区市議会議員と



(リック・ジェニングズ市議会議員)

して初当選し、2016年と2017年の2年間はサクラメント市の副市長を務め、2016年10月には姉妹都市提携35周年記念訪問団の団長として来松している。とてもフレンドリーな方で、視察団一人ひとりに笑顔で声をかけ

ていただき、和やかな雰囲気の中で表敬訪問を終えることができたことに感謝している。



(カリフォルニア州会議事堂)

次に市庁舎を後にし、カリフォルニア州会議事堂を視察した。格調高い柱にドーム屋根を備えた真っ白な建物で、1869年に建てられたものである。建物の中へ入るためには空港の保安検査場

のようなセキュリティチェックがあり厳重に管理されている。州会議事堂は無料の見学ツアーも開催されており、中に入ると小学生の親子連れの団体や大学生の団体なども見学していた。主権者教育の一環として松山市においても小中学校生徒の議場見学を年中行事の一つに加えて欲しいと願う。

私たち視察団もガイドのシンディさんに施設等の説明を受けながら、知事、州務長官、財務長官の執務室や州議会上院及び下院の議場を視察見学させていただいた。ハリウッド映画の「ターミネーター」で知られる第38代の州知事アーノルド・シュワルツェネッガーの肖像画も見ることができた。

次に、NEW HELVETIA BREWING COMPANYでクラフトビール工場の視察見学を行った。ジェニングズ議員も三たび来ていただき、工場と併設しているビアホールでの昼食会で交流を図った。ここでもジェニングズ議員は、最高の笑顔で我々団員との会話を盛り上げ



(クラフトビール工場での説明)

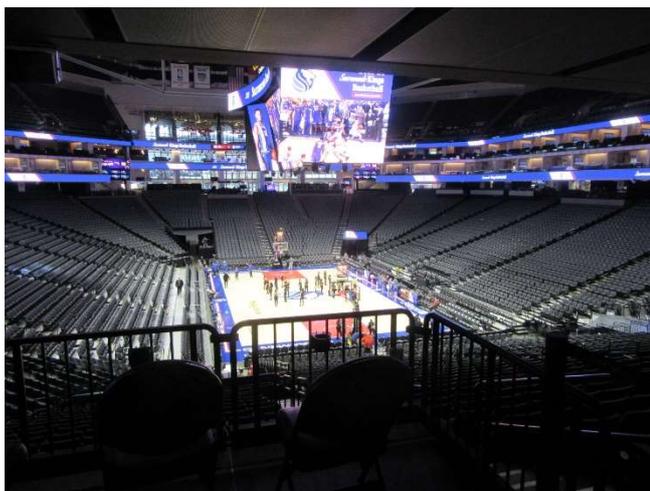


(GOLDEN 1 CENTER 外観)

てくれて、その会話の中で2026年の姉妹都市交流提携45周年には是非とも松山へ来ていただきたいことをお伝えした。

昼食後は、NBAのサクラメント・キングスのホームアリーナであるゴールデン1センターを視察見学した。当アリーナは、収容人数は約17,500人、10

0%太陽光発電で稼働する2016年にオープンしたサクラメント市が所有する屋内競技場である。屋根に設置された太陽光パネルによる出力は700KWであるが、地元電力会社と契約し約64km離れた大規模太陽光発電所から送電を受け、運営に必要な全ての使用電力を太陽



(約 17,500 人収容できるアリーナ)

光でまかなうことを実現している。セキュリティチェックを受け施設に入ると、まさに本場アメリカのバスケットボールアリーナということで、そのスケールの大きさに驚きと感動を覚えた。この日は夕方から試合が行われるということで、準備が行われている中、コートの中にも入らせていただき、最新の環境テクノロジーを導入したすばらしいエコアリーナで貴重な体験をさせていただいた。

視察終了後は、サンフランシスコへ専用車で移動した。

1月23日 視察3日目

午前中は、バス路線などを併設した交通ターミナル施設であるセールスフォース・トランジットセンターを視察した。

当施設は地上4階、地下2階建の巨大なバスターミナル施設で、1階部分がメインロビー、2階部分がレストランやショッピングスペース、3階部分がバスターミナル、4回部



(セールスフォース・トランジットセンター)

分が空中庭園となっており、サンフランシスコ市街の交通渋滞の緩和のため整備をしたとのことであった。しかしながら、コロナ禍で在宅就業とマイカー通勤が浸透したことにより、バス利用者は激減し、コロナ前は1日に約17,000人のバスタ利用があったものの、現在は約4,000人程度と当初の4分の1になっているため、運営は現状赤字で、収入としてはテナント料などのほか、市からの補助で賄われているとのことだった。

午後からは、サンフランシスコ市内にある28か所の図書館のうち、ウエスタンアディション分館とサンフランシスコ市公共図書館を視察した。

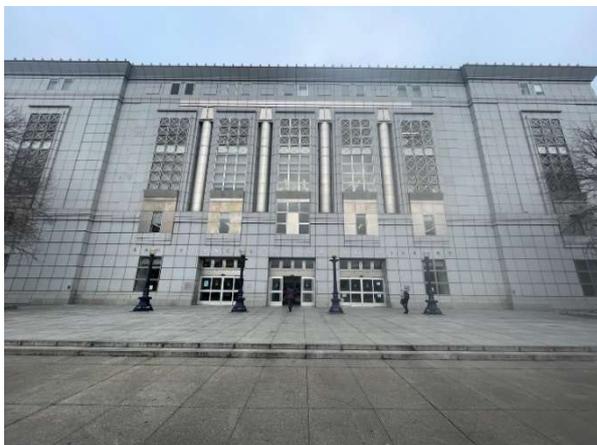


(ウエスタンアディション分館)

まず、ウエスタンアディション分館は、JAPAN TOWNにある図書館で、職員の酒井スーザンさんに案内い

ただいた。市内28か所の図書館には日本の本は約15,000冊あるが、そのうち当分館には約13,000冊あり、実用本や料理本、漫画の貸し出しが多いとのことだった。

次に、サンフランシスコ公共図書館の本館を視察見学した。



(サンフランシスコ公共図書館)

当該施設は、地下1階、地上6階の建物で、1階の中央には天井まで吹き抜けがあり自然光が各階に届き開放感に溢れる空間となっている。2階には、チルドレン・センターやティーン・センターがあり、子どもたちがフロアに座って本を読んだり、

缶バッチの作成や楽器の演奏・録音ができる部屋もあつたりと児童館のようなスペースもあり、中高生の居場所としての役割も果たしていた。また、視覚・聴覚障がい者向けにオーディオブックや音声解説付きDVDなどを閲覧できるコーナーもあり障がい者へのサポートも充実していた。

3階には、インターナショナル・センターとして、数十種類もの外国語の本がそれぞれの国ごとに並べられており、スワヒリ語、ヒンズー語といった珍しい言語の本のコーナーもあつた。日本語の本は4番目に多いとのことであつた。



(図書館の職員からの説明を熱心に聞く)

当図書館は子どもからお年寄り、障がい者などあらゆる人々にとって先進的なサービスや地域社会への貢献など重要な役割を担っていると感じた。

1月24日 視察4日目

この日は、翌日からのカナダでの視察のため、サンフランシスコ空港で出国手続きを終えてから13時10分発のバンクーバー空港行に搭乗し、カナダへ出発した。バンクーバーには、16時10分に到着し、入国手続きを済ませて宿泊先へ移動した。移動中には、今回視察するバンクーバーについて、ガイドの鈴木さんから説明を受けた。カナダの人口は約3,800万人で日本の人口の約3分の1、面積は約998万平方キロメートルで日本の面積の約26倍である。ブリティッシュコロンビア州に位置し、人口は約72万人。カナダでの中堅都市の位置づけとしては、人口密度、商業、経済等を総合的にみて、トロント、モントリオールに次ぐ3番目の都市であるとのことであつた。2010年にはバンクーバー冬季オリンピックが開催されている。人種構成は、カナダの

人口の約6割が移民と言われていることもあり、アジア系の人種が約3割と多く特に中国系やインド系が多いとのことである。自然に囲まれたいい場所で気候や治安もいいということもあり、日本からの観光客や留学生も多いとのことである。

1月25日 視察5日目



(愛媛と書かれて売られている中国産のみかん)

TransLink社のカナダライン(公共交通機関)でリッチモンド市へ向かい、アジア系、白人系、日系の3種類のスーパーマーケットで日本産品等がどのように販売されているのかについて視察した。3店舗を比較して共通していることは、どの店舗とも日本の商品が数多く売られているということ。特徴的だったのはアジア系のスーパーマーケット「大統華T&T」では、中国産のオレンジが「愛媛果凍橙(ゼリーみかん)」と書かれており、外国の方がみると愛媛県産と間違えるような形で売られていた。実際に購入して食べてみたが、ゼリーのような食感はなく、ごく普通のみかんだった。

他には、視察時にはなかったが、「紅まどんな」も店頭に並んでいることもあるという。このようにカナダで本物の日本産品が売られていることで、日本のことも知ってもらえることから、「まつやま農林水産物ブランド」も海外でPRし、世界に知ってもらえるような取り組みをしてもいいのではないかと思った。

午後からはバンクーバーの交通施策としての自転車レーンやシェアバイクについて現地視察した。ガイドさんによると、バンクーバーはまだまだ車依存社会であり、ガソリンを使用した車から排出される二酸化炭素の削減が大きな課

題となっているとのことであった。国の政策として、2035年までにカナダ全土で販売される全ての自動車（トラック等の大型車を除く）を電気、又は水素を原動力とした車両のみとするとしている。バンクーバーもこの政策に沿った対策を行っており、公共交通機関の充実化や二酸化炭素ガス排出ゼロの車の普及、そして、安全に徒歩や自転車で移動可能なまちづくりを目指しているとのことであった。

現地では、車道の横に自転車専用道路が設置されており、安心して走行できるようになっていた。また、街のいたるところに電動キックボードも配置しており自転車のインフラ整備が進んでいた。これらを実現するためには、一方通行や車幅の縮小など自動車での移動が複雑になり市民の反応も賛否両論で不満の声も多くあったようだが、グリーンなまちづくりの必然性は多くの市民が理解しているため段階的に現実化してきたとのことであった。本市においても自転車専用レーンの設置や車道



(自転車専用道路とシェアバイク)

の縮小など課題はあるものの、グリーンなまちづくりの実現に向けての取り組みを検討してはどうかと感じた。

1月26日 視察6日目

8時30分にバンクーバー空港へ向け出発。その途中、スタンレーパークを視察した。この公園は、バンクーバーのダウンタウンの西部にある400ヘク



(スタンレーパークのトーテムポール)

タールの原生林が残る広大な自然公園で、公園内には水族館やトーテムポール、展望スポット等があり観光客やバンクーバー市民の憩いの場となっている。

また、海岸沿いには遊歩道（シーウォール）が整備されており、訪問時も9時前であったが散歩やサイク

リング、ジョギングを楽しまれていた。対岸に見える高層ビルの景色も壮観で、公園内ではカナダグースやリスなどや野生動物も見ることができ、都会の中にある自然の美しさを堪能できた。

現地時間1月26日、12時40分にバンクーバー空港を出発し帰国の途に就いた。

1月27日 視察7日目

日本時間1月27日、16時30分に成田空港へ到着し入国手続きを済ませた後、羽田空港に移動した。そして、19時45分に羽田空港を出発し、21時20分松山空港に全員無事に到着後、到着ロビーの一角にて解団式を行った。

視察団員の協力により、視察期間中、特に大きな問題もなく全行程を無事に終えることができたことを、団員一同に感謝申し上げる。

また、今回の視察が円滑に進み所期の目標を達成することができたのも、視察先で対応していただいた皆様のおかげであり、視察団を代表して深く感謝を申し上げます。

今後は、この視察で学んだ知識や体験を議会活動や市政に反映し、市民福祉の向上につなげることを誓い、団長としての総括とする。